

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300036		
法人名	グループホーム 文の里		
事業所名	グループホーム 文の里(2F)		
所在地	大阪府大阪市阿倍野区文の里4丁目21-23		
自己評価作成日	平成24年5月13日	評価結果市町村受理日	平成24年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqkensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;liqyosyoCd=2792300036-00&amp;PreID=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaiqkensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;liqyosyoCd=2792300036-00&amp;PreID=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年8月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで以上に、お一人おひとりの思いや希望を叶えられるように努力をしています。誕生日会を皆で祝うだけのものから、御本人や御家族様に希望を伺い、その思いや希望が叶えられるように企画を立てています。可能であれば、御家族様にも参加して頂いています。入居者が怒ったり、笑ったりと喜怒哀楽出せる様な生活を送って頂けるように心掛けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から3年目を迎えた当該ホームは、楽しくのんびりと過ごせる我が家であって欲しいとの願いを含めて、「楽しく笑ってほっとして過ごそうね」と独自の理念を掲げ、日々の生活の中で、利用者に多くの笑顔が見られるように職員自身も笑顔を心がけた支援に取り組んでいます。職員は利用者何気なく発した言葉の奥にあるその方の思いを汲み取り、暮らし方の希望や行きたい所など、個々の願いを叶えるための外出支援に力を入れ、趣味の教室通いや公共交通機関を使い、田舎へ帰るなどの個別の支援に取り組み、利用者の生き生きとした表情から多くの事を学び職員のやりがいに繋がっています。管理者や職員、家族、地域が一丸となって、利用者が地域の中で尊厳をもってその人らしく暮らせるよう支援しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、スタッフと話し合いを持ち確認している。分かりやすい言葉で、ホームの第二の理念を掲示しています。	基本理念を基に、職員で考えたホーム独自の理念を「楽しく笑ってほっとして過ごそうね」と掲げ、玄関の目に付き易い場所に掲げ、意識付けしています。職員は利用者と共に笑顔で一日を過ごせたかを日々のケアやケア会議の中で振り返り、確認し合うと共に理念が現状に合っているかも確認し、見直しも行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時等で、地域の方に会った時には、気軽に挨拶を交わさせて頂いています。また地域の喫茶や行事に参加している。	自治会に加入し、地域の夏祭りや盆踊り、もちつき大会等の行事に積極的に参加しています。幼稚園児の来訪やホーム主催の夏祭りでは地域へ参加を呼びかけ、地域の方と交流を図っています。近所の商店街での買い物やよく行く喫茶店では店の方と顔見知りの関係が築かれ、日常的に地域と繋がりながら暮らし続けられるよう支援をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの希望があれば、介護に対する相談や介護方法の助言を行います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しています。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、町会婦人部、地域ネットワーク委員、家族代表等の参加の下、2ヶ月に1回開催しています。行事やホームの状況などを報告し、参加者と意見交換をしています。ボランティアの受け入れ等の情報をもらったり、出された意見は運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と更なる連携や協力体制を望んでいるが、まだ不十分です。	会社の事務長が介護保険の更新や相談、運営推進会議の議事録などを直接市に届け、ホームの実情を伝えて、協力関係が築けるように努めています。市主催の研修案内があれば、職員が研修に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介助の中で、身体拘束になっていないかをスタッフ全員で確認をしています。	全体会議やホーム会議で身体拘束について勉強会をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。日々のケアの中で言葉による制止や対応等が見られた時は、その都度、職員が理解できるよう具体的に説明しています。帰宅願望がある方は、職員が見守り、行きたい方向へ自由に歩いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修により、学ぶ機会を持ち面接時等で訪問する際は、留意しています。		

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の様子や必要な情報を共有し、話し合いの機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いを実施し、契約後も不安や疑問点には迅速に対応できるように心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定例会議で、意見交換をしています。	面会時や年2回、家族会の開催、アンケートの実施などで意見を聞いています。入浴回数や外出の希望等の意見が出され、個別プランに反映したり、毎月担当者との希望に沿った個別外出の実施に繋げるなど、出された意見や要望は全職員で共有し、サービスの改善に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に、職員の意見や提案を聴き意見交換出来る場を設けています。	法人の全体会議やホーム会議、個人面談で意見や要望を聞いています。職員からは利用者の思いに沿う為の外出支援について意見が多く出され、職員間で検討しながらケアに反映させています。また、案件によって会社に要望を上げ、組織で取り組むよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた、業務内容に変更したり、職員からの提案があれば、出来る限り取り入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会に職員が積極的に参加出来るよう、学習内容も検討して決めている。また、職員が外部の研修で学んできた事を勉強会で他の職員に伝える事でスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームと会議や職員懇親行事を行なって交流している。また、グループホームネットワークでのワークでスタッフ間の交流を行うよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の際に施設見学をして頂き、面接はご自宅に訪問し、ご本人が緊張をされることなくお話をして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にいたるまでに、書面や面談で情報の共有し、ご家族の困っている事や不安、要望等を聴き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、現在の状態を把握し必要に応じて様々なサービスの説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を人生の先輩と尊敬しながら、日々の生活を共に過ごして頂けるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者様のご様子を報告させて頂き、意見交換をしている。また、共に過ごして頂けるような場を持って頂ける事で、家族の絆を大切にして頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂けるように働きかけている。また、馴染み親しんだ場所に出かけるような企画を実施している。	友人や教え子などの来訪があります。馴染みの喫茶店へ行ったり、趣味のサークルや教室通いを支援しています。地元の盆踊りを見に行ったり、公共の交通機関を使って遠方の田舎や自宅に行くなど、個々の利用者が行きたい所へ行ける支援を大切にしながら、馴染みの人や場所との関係が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のコミュニケーションがスムーズに出来るように、職員は常に間に入り沢山の関わりが持てるように努力している。		

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての、相談や助言を必要に応じて提供できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で、ご本人に思いや要望を聴き取り、実現できるように努力している。	入居前の面談時に利用者や家族から聞き取った思いや意向をアセスメント用紙に記入し、入居後は日々の支援の中で、気づいた事や把握した事をセンター方式を用いて追記し、思いの把握に努めています。日々のケース記録は利用者の様子や発した言葉がそのまま書かれ、利用者の思いが職員間で共有しやすくなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方等をご本人やご家族からお聞きし、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録にお一人おひとりの一日の過ごし方や心身の状態等を記録し、職員全員で把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し、必要に応じて主治医や関係してくださっている方にも参加して頂き、意見交換し、ご本人の意向に添った介護計画を作成している。	毎月カンファレンスを開き医師や看護師、関係者の意見を聞き、利用者や家族の思いに沿った介護計画を作成しています。3ヶ月に1回モニタリングを行い、3ヶ月から1年毎に見直し、変化がある時は随時見直しています。訪問マッサージ師のアドバイスなども必要に応じて反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に残し、職員間での情報の共有化を図り、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、ご本人や状態に合わせた支援が出来るように取り組んでいる。		

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんに来て頂いたり、ふれあい喫茶など地域の行事に参加する事で、気分転換を図り楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談の上、入居者様やご家族の意向を尊重し、適切な医療処置が受けられるように努めている。	これまでのかかりつけ医が継続できることを説明し、受診は家族が対応しています。眼科への受診など場合によっては職員が対応し、情報交換をしてかかりつけ医との連携を図っています。協力医による2週間に1回の往診や週1回訪問看護を受けています。希望により訪問歯科や訪問マッサージを受けてもらっています。24時間協力医とは連絡がとれる体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回入居者様の状況を看護師に報告し、必要であればDrからの処置を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療関係者と連携を図り、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やご本人と早い段階で、終末期のあり方について、話し合いを随時持ち、当事業者で出来る事、出来ない事を確認し合っています。 また、主治医や関係者にも方針の情報を共有しチームで支援できるようにしている。	契約時に看取り指針に沿って、ホームで対応出来る事や出来ない事について説明しています。重度化や状態に変化があれば、早い段階から主治医が家族に説明して意向を再確認し、職員や関係者で話し合い、方針を共有しています。主治医より看取りのケアについての勉強会実施の提案があり、今後看取りについての勉強会を予定しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で、応急手当等を学習する機会を作っている。 また、参加出来ない職員には、書面での閲覧を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知機等の設備や非常時の対応を職員に周知しています。	年2回の防災訓練の内1回は消防署の協力の下、昼間を想定した訓練を行い、夜間を想定した訓練は独自で行っています。通報の仕方や避難場所、避難経路、消火器の場所の確認などを行い、消防署からアドバイスを受け、職員間で確認し合っています。	災害時に事業所が協力できることなども伝えながら、運営推進会議で議題にあげたり、近隣住民に声かけを行うなど、協力を得られるよう働きかけをされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様の人格を大切にし、尊敬の念を持って接するよう心がけています。また、プライバシーにも配慮しています。	新人研修や接遇研修で言葉遣いや接し方等について受講し、尊厳をもって接するよう努めています。トイレの声掛けは直接的な言葉を避けたり、利用者は名字で呼ぶ等を基本としています。利用者信頼関係を築いた上で、その時々場面に合わせて対応を心がけ、不適切な言葉使いなどがあれば注意し、会議の中で再度話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをしっかりと、入居者様が思いや希望を表わし、自己決定が出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースで生活が出来るように支援し、充実した時を過ごして頂けるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	例えば、外出時にはお化粧品をして頂いたり、白髪が気になる方には、定期的に毛染めが出来るようにしたり洋服と一緒に選んだり綺麗になって「うきうき」した気分で過ごしていただけるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、利用者様と共に行なっています。食事は、職員も利用者様と和やかな雰囲気で行い、片付けも一緒にして頂いています。	業者から食材が配達されており、利用者の希望や好みに合わせて食材を止めメニューを変更することもあります。調理の準備や片付け、おやつ作りは利用者と一緒にしながら、利用者が力を発揮できるように支援しています。寿司や天丼など希望に沿って外食にも行っています。職員も同じ食卓で同じものを食べ、楽しい雰囲気となるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を確認し、栄養のバランスや水分量が確保できるように工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、口腔内の清潔が保てるようにしています。必要に応じて、歯科受診をして頂いています。		

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を活かし、さりげなくトイレの声掛けをし、失禁の無いように支援しています。	記録を基に個々の排泄パターンを把握し、排泄のサインを察知して誘導するなど、トイレで排泄できるよう支援しています。失敗があっても安易に紙パンツに移行せず工夫しながら支援しています。失敗が減り、紙パンツから布パンツに変更になることで利用者の自信の回復へと繋がっています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足による便秘解消のために、毎朝のラジオ体操や散歩等を実施している。また、こまめに水分摂取して頂けるように声掛けをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身の状態に合わせて入浴の声掛けをし、出来る限りお一人おひとりの希望に添えるよう支援しています。	週3回を目安に日中の時間帯でその方の希望する時間に入ってもらっています。毎日入浴される方や夜間を希望される方は職員のシフトを調整して対応しています。拒否をされる方は原因を探りながら声かけやタイミングを工夫し、無理強いくことなく入浴が出来るように努めています。季節の柚子湯や菖蒲湯など、入浴が楽しめるような工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮し、休息の取れる場所を提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導による、薬剤師による管理をしています。また、職員も入居者様が服用されている、お薬についての目的や副作用等を理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、役割を持って頂き、生涯現役で充実した生活を過ごして頂けるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や買物、また外食等の支援をしています。	ほぼ毎日散歩に出かけ、暑い時も希望があれば体調に気をつけながら外出の支援をしています。個別の希望を聞いて喫茶店や買い物へ行ったり、ドライブや季節の花見、車椅子の方も一緒に交通機関を使って出かけています。また、趣味の教室やサークルに通う方など利用者の希望を大切に外出支援に日々取り組んでいます。	

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりし、スタッフが付き添い買物等に行ってもらったり、公共機関を使用して頂く時に、自身で切符を購入して頂くなどし、お金を使っていたら支援助けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、ご本人が希望される時に電話を使用して頂いたり、御孫様よりお手紙が届くと、返事のお手紙をスタッフと相談されながら記入して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節に合った飾り付けをしたり、植木鉢や生花を飾る事で、季節を感じて頂いています。	リビングの壁に行事の写真や季節感のある作品を飾り、出窓に金魚の水槽や観葉植物などを置き、光や空気の流れにも配慮しながら居心地の良い空間を作っています。またソファやテーブルの配置を工夫したり、台所から漂う匂いや音から生活感などを味わいながら、温かく家庭的な雰囲気の中で利用者が安心して過ごせる環境となるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチにて、スタッフや気の合う入居者様同士で思い思いの時間を過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使い慣れた家具や写真を置いてあり、落ち着いて過ごして頂けるように工夫しています。	居室はトイレと洗面台が備え付けられ、利用者は使い慣れたベットや筆筒、机、テレビ、大切な写真や仏壇、仕事で使っていた本等を持ち込まれています。家族と相談しながら、布団から立ち上がり易いよう椅子を配置するなど工夫しながら安心してその人らしく過ごせる居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、ご自分のお部屋がわかりやすいように、名札や飾りを付けをしています。また、その時々に応じて、安全に生活して頂けるように工夫をしています。		